

# 高知県感染症発生動向調査（週報）

2018年 第47週 （11月19日～11月25日）

## ★お知らせ

### インフルエンザ予防接種について！

季節性インフルエンザは、その年により流行の程度に差がありますが、例年11月頃から患者が増え始め、12月から3月頃にかけて流行します。インフルエンザワクチンは、インフルエンザウイルスに感染した場合に発症を一定程度抑える効果や重症化を予防する効果が認められています。ワクチンを接種してから抗体ができて予防効果が発現するためには、およそ2週間かかると言われています。かかりつけ医等医療機関にご相談のうえ、予防対策の1つとして予防接種をご検討ください。

### ○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の2.37から第47週は3.10と増加しています。県全域から報告があり、中央西、幡多で急増、安芸、須崎、中央東で増加しています。

学校欠席者・感染症情報システム※でも11例の報告があることから注意が必要です。

定点医療機関からのホット情報では、病原性大腸菌やカンピロバクター属菌等細菌を原因とする胃腸炎7例（カンピロバクターと病原性大腸菌の同時感染も含む）の報告があります。

感染性胃腸炎は年間を通じて発生していますが、特に冬季にはノロウイルス等ウイルスによる胃腸炎の流行がみられます。特に、ノロウイルスは感染力が強く、少量のウイルスでも感染するため、保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

＜予防方法＞ 手洗いが有効です。

帰宅時や調理・食事前、トイレの後には石けんと流水でしっかりと手を洗いましょう。

便や嘔吐物を処理する時は、感染した人の便やおう吐物には直接触れないようにし、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで、キッチンペーパーなどを使用して処理しましょう。処理後は石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

また、細菌による感染性胃腸炎の予防対策としては、食中毒の一般的な予防方法（食中毒菌を①付けない（洗う・分ける） ②増やさない（低温保存・早めに食べる） ③やっつける（加熱処理））です。食品の冷所保存を心がけ、長期保存は避ける、加熱は十分にするなど、日常生活での食中毒予防を心がけてください。

### ○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第46週の1.10から第47週は1.10と横ばいです。中央東で急減していますが、幡多で急増しています。

学校等欠席者・感染症情報システム※でも溶連菌感染症9例の報告があることから注意が必要です。

この病気は、高熱・咽頭痛・おう吐を主症状とする細菌性の感染症で、熱は3～5日以内に下がり、1週間以内に症状は改善します。まれに重症化し、喉や舌・全身に発赤が広がる猩紅熱といわれる全身症状を呈します。また、リウマチ熱や急性糸球体腎炎などの合併症を起こすこともあります。

＜予防方法＞ 人から人への飛沫感染・接触感染が主です

人と接触する機会が増える時期に感染が起りやすく、家庭や学校など集団での感染も多くみられます。うがい、手洗いなどの一般的な予防法を励行しましょう。

### ○流行性角結膜炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は、第46週の0.67から第47週には1.33と増加しています。高知市で急増し注意報値を超えています。

定点医療機関からのホット情報では、小児科定点医療機関から流行性角結膜炎1例の報告があります。

この病気は、「はやり目」とも言われ、流涙、結膜充血、眼脂が主な症状で、感染力が強く、片眼発症後は2～3日で両眼に発症することもあります。また、耳前リンパ節腫脹と圧痛を伴うこともあります。アデノウイルスによる接触感染のため、患者の眼や顔を触った後は流水と石けんでしっかりと手洗いしましょう。

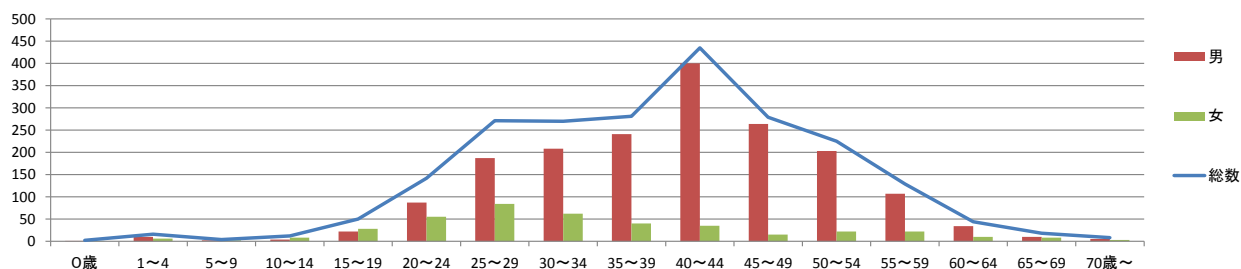
＜予防方法＞ 人が濃密に接触する機会が多い場所は注意してください

できるだけ他人との接触は避け、眼を触ったらすぐに石けんと流水で手洗いしましょう。家庭内ではタオル、枕、その他眼や涙で汚れそうな物の共有は避けるようにしましょう。

## ○風しんの届出数が多い状態が継続しています

関東地方を中心に風しんの報告が多い状態が継続しています。高知県の患者数は、2015（平成 27）年から報告はありませんが、2018（平成 30）年の全国患者数 2186 人（第 46 週まで）のうち 96%（2102 人）が成人で、男性が女性の 4.5 倍多くなっています（男性 1785 人、女性 401 人）。

第46週までの風しん報告数(年齢別・性別)



報告数の多い都道府県は、東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県以外に大阪府、福岡県、茨城県、兵庫県、静岡県など首都圏以外の地域からも報告が認められています。四国でも、高知県を除く 3 県からは報告がされており、第 46 週時点で報告のない県は高知県を含め全国で 3 県となっています。

今後、全国的に感染が拡大する可能性がありますので注意してください。

＜各医療機関管理者の皆様へ＞

（高知県健康対策課 平成 30 年 8 月 17 日付け 30 高健対第 859 号「風しんの届出数の増加に伴う注意喚起」より）

- ① 発熱や発疹を呈する患者を診察した際は、風しんに罹っている可能性を念頭に置き、最近の海外渡航歴及び国内旅行歴を聴取し、風しんの予防接種を確認するなど風しんを意識した診察をお願いいたします。
- ② 風しんを疑う患者を診察した際は、確定診断のためのウイルス検査を県衛生研究所で行うので、直ちに最寄りの福祉保健所又は高知市保健所へ届け出るようお願いいたします。

＜県民の皆様へ＞

風しんの予防、感染の拡大防止には予防接種が効果的です。

風しんの定期接種対象者は、予防接種を受けましょう（1 歳児、小学校入学前 1 年間の幼児の方）

風しんに感染した方の周りに抗体の低い妊婦がいる場合、特に妊娠 20 週頃まで（妊娠初期）の女性が風しんに罹ると胎児が風しんウイルスに感染し、難聴や心疾患など様々な障害（先天性風しん症候群）をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。妊婦や赤ちゃんを守る観点から妊婦の周りにいる方（夫、子供及びその他の同居人）は風しんに罹らないように予防に努めましょう。

風しん Q&A2018 年 1 月 30 日改訂版(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/rubellaqa.html>

風しんについて（厚生労働省）

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/rubella/)

衛研ニュース第 20 号（高知県衛生研究所）30～50 歳代の男性！風しんのことを知っていますか？

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2018101000056.html>

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム



☆ダニの感染症（日本紅斑熱・SFTS・つつが虫病）に注意！

第47週に高知市保健所から1例つつが虫の発生届けがありました。

「日本紅斑熱」や「SFTS（重症熱性血小板減少症候群）」は屋外に生息するダニの一種で、比較的大型（吸血前で3～4mm）の「マダニ」が媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは、暖かい春から秋にかけて盛んに活動し、この期間に多くの患者発生がみられますが、冬でも発生例が報告されています。これから寒い季節となりますが、屋外で活動される場合はマダニ対策を心がけましょう（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）。

【マダニに咬まれないために】

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。
- ペットの散歩等でマダニが付き、家に持ち込まれることがありますので注意しましょう。

また、「ツツガムシ」に咬まれることによって感染する「つつが虫病」にもご注意ください。高知県では秋から冬にかけて多く報告されており、ダニの一種である「ツツガムシの幼虫（0.2mm）」が媒介する感染症です。全てのツツガムシが病原体を持っているわけではありません。

予防対策については、マダニと同じく「ツツガムシに咬まれない」ことです。

屋外活動する時には、長袖や長ズボンで肌の露出を避けることや、ツツガムシに対する虫除け剤（有効成分：ディート）を活用するなどマダニと同様の対策をして注意しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診してください。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（ダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts_qa.html)
- 高知県衛生研究所 ダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット  
<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

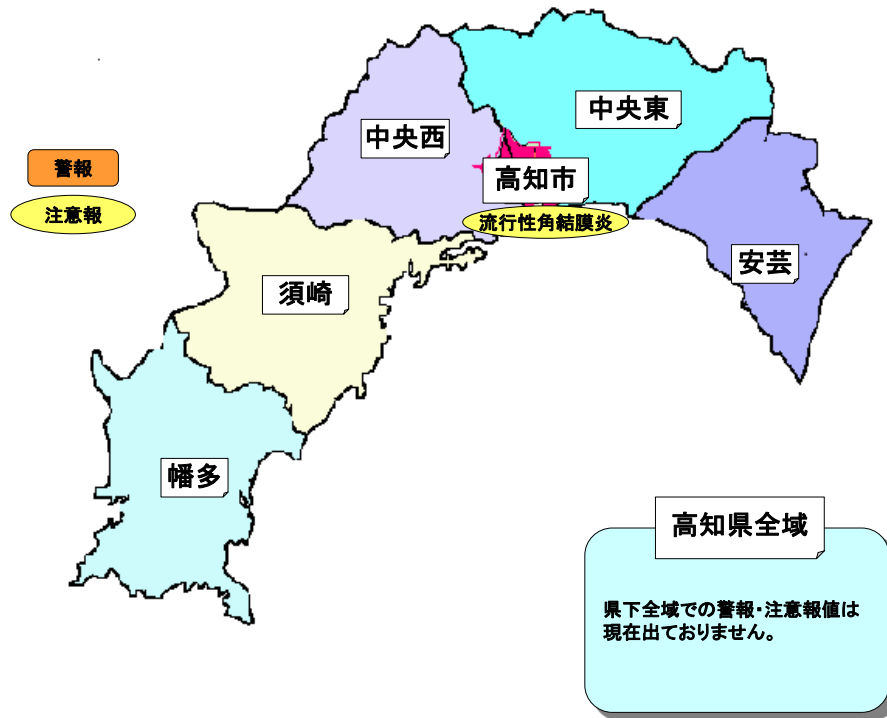
★県内での感染症発生状況

インフルエンザ及び小児科定点把握感染症（上位疾患）

↑：急増    ↗：増加    →：横ばい    ↓：減少    ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり 報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	3. 1 0	中央西、幡多で急増、県全域、安芸、須崎、中央東で増加しています。
A 群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	→	1. 1 0	中央東で急減していますが、幡多で急増しています。
手足口病	↗	0. 7 3	中央東で減少していますが、高知市で急増、県全域、中央西で増加しています。
RS ウイルス感染症	→	0. 3 0	中央西、幡多で急減していますが、安芸で急増、高知市で増加しています。
突発性発疹	↓	0. 2 7	県全域、高知市、安芸、幡多で急減、中央東で減少しています。

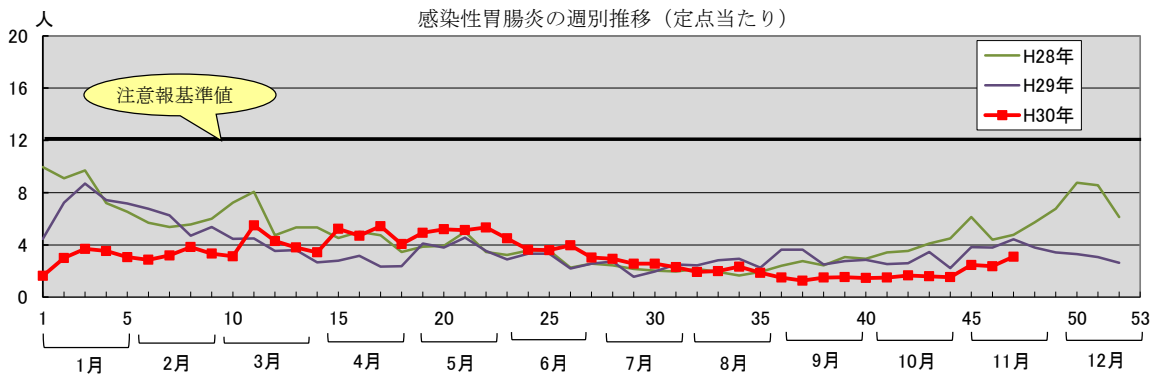
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

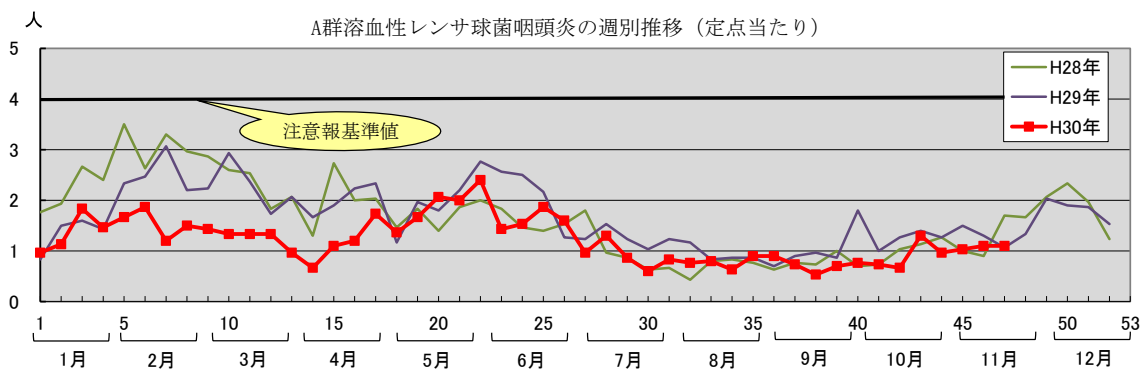
○感染性胃腸炎 第47週：3.10（注意報値：12.00 警戒値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.10（前週：2.37）と増加しています。中央西 3.00（前週：0.67）  
 幡多 3.00（前週：0.80）で急増、安芸 4.50（前週：3.50）須崎 3.50（前週：2.00）中央東 2.00（前週：1.57）  
 で増加しています。



○A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 第47週：1.10（注意報値：4.00 警戒値：8.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 1.10（前週：1.10）と横ばいです。中央東 0.14（前週：0.71）で  
 急減していますが、幡多 0.20（前週：0.00）で急増しています。



★病原体検出情報

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
46	咽頭結膜熱	上気道炎,結膜炎,	1	女	高知市	Adenovirus 1
46	気管支炎	40℃,咳嗽,上気道炎,気管支炎,	1	女	幡多	Adenovirus 5
46	不明発疹症	39℃,発疹,	4ヶ月	女	須崎	Rhinovirus
46	インフルエンザ様疾患	39℃,下気道炎,	3	女	幡多	Rhinovirus

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内 容	保健所
2類	結 核	1	94	80歳代 男	安 芸
		1		90歳代 女	
		1		20歳代 男	中央東
		1		60歳代 女	高知市
4類	つつが虫病	1	1	60歳代 女	
5類	侵襲性肺炎球菌感染症	1	14	60歳代 男	

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情 報
中央東	早明浦病院小児科	感染性胃腸炎 (E.coliO8) 1例 (1歳女)
高知市	けら小児科・アレルギー科	カンピロバクター+病原性大腸菌 O-18 腸炎 1例 (6歳) カンピロバクター腸炎 1例 (3歳) アデノウイルス咽頭炎 2例 (1歳、7歳)
	高知医療センター小児科	病原性大腸菌 1例 (1歳男)
	三愛病院小児科	hMPV 1例 (1歳女) 帯状疱疹 1例 (7歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	手足口病 4例 溶連菌感染症 4例 水痘 1例 (3歳男:ワクチン未接種) RSウイルス感染症 2例 (1歳男 2人)
	細木病院小児科	サルモネラ 1例 (2歳男) キャンピロ 1例 (13歳女)
中央西	日高クリニック	アデノウイルス扁桃炎 1例 (1歳男)
	くぼたこどもクリニック	手足口病 1例 (1歳女:高知市) 突発性発疹 1例 (1歳男:いの町)
須 崎	もりはた小児科	流行性角結膜炎 1例
幡 多	さたけ小児科	サルモネラ O7群 1例 (3歳男)

★全国情報

第45号 (11月5日~11月11日)

1類感染症: 報告なし

2類感染症: 結核391例

3類感染症: コレラ1例、細菌性赤痢10例、腸管出血性大腸菌感染症42例、腸チフス1例、パラチフス1例

4類感染症: E型肝炎8例、A型肝炎6例、エキノコックス症1例、つつが虫病17例、デング熱8例  
日本紅斑熱6例、マラリア2例、レジオネラ症33例

5類感染症: アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症23例

急性弛緩性麻痺10例、急性脳炎5例、クリプトスポリジウム症1例、

クロイツフェルト・ヤコブ病2例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症7例、

後天性免疫不全症候群19例、侵襲性インフルエンザ菌感染症4例、

侵襲性肺炎球菌感染症55例、水痘 (入院例に限る) 3例、梅毒98例、

バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例、百日咳259例、風しん137例1例、麻しん4例

削除予定: 水痘 (入院例に限る) 1例、風しん2例

報告遅れ：E型肝炎1例、つつが虫病5例、デング熱1例、レジオネラ症4例  
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症21例、急性弛緩性麻痺1例、急性脳炎8例  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症5例、侵襲性髄膜炎菌感染症1例、水痘（入院例に限る）9例、  
梅毒46例、播種性クリプトコックス症2例、破傷風1例、百日咳94例、風しん13例、  
麻しん1例

-----  
**★注目すべき感染症（国立感染症研究所IDWR2018年第45号より）**

◆ インフルエンザ

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられる。主な感染経路は咳、くしゃみ、会話等から発生する飛沫による感染（飛沫感染）であり、他に飛沫の付着物に触れた手指を介した接触感染もある。感染後、発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続くが、いわゆる「通常感冒」と比べて全身症状が強いことが特徴である。通常は1週間前後の経過で軽快する。

インフルエンザは、全国約5,000カ所のインフルエンザ定点医療機関（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）から、患者数が毎週報告されている。2018/19シーズン〔2018年第36週（2018年9月3～9日）以降〕のインフルエンザ定点当たり報告数は、2018年第41週の0.12から第45週（2018年11月5～11日）の0.35と継続して増加した。週毎のインフルエンザ定点当たり報告数を過去5年間の同時期の平均（当該週と過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均）と比較すると、第37～40週は平均を超えていたが、第43～45週は平均より低いレベルであった。第36～41週の都道府県別定点当たり報告数は、沖縄県を除いて1.00を上回る都道府県はなく、大きな増加はみられなかったが、第42週以降、三重県も継続して1.00を上回っていた。沖縄県では、第36週以外は1.00を上回り、その値は1.24～3.69の間で推移していた。第36～45週の定点医療機関（全国約5,000）からの報告数の男女比は例年と同様で、15歳未満の年齢群では1.1:1とやや男性に多く、15歳以上の年齢群では1:1.2とやや女性に多かった。

全国約500カ所の基幹定点医療機関からのインフルエンザによる入院患者数（インフルエンザ入院サーベイランス）においては、第36～41週は週当たり9～24例と増減を繰り返し推移していたが、第41週（9例）～第45週（32例）は継続して増加した。今シーズンのインフルエンザによる入院患者の累積報告数は170例で、70歳以上の高齢者が60例（35%）、10歳未満の小児は64例（38%）であった。

インフルエンザウイルス型別の検出状況について、昨シーズンはAH1pdm09、AH3、B型が同時に流行した。今シーズンはこれまでにAH1pdm09が85株、AH3が30株、B型が5株（山形系統4株、ビクトリア系統1株）検出されている。

例年のインフルエンザは、全国の定点当たり報告数が1.00以上（流行開始の指標）となる11月末から12月にかけて流行が開始し、ピークは1月末から2月上旬が多い。昨シーズン（2017/18シーズン）は第47週に定点当たり報告数が1.00を上回り、この流行開始はその前のシーズン（2016年第46週に流行開始）と同様に、例年より早かった。今シーズンは、第41週以降、定点当たり報告数、入院患者数ともに継続して増加しており、インフルエンザ様疾患発生報告における休校、学年閉鎖、学級閉鎖施設数の合計も同様に継続して増加している。

インフルエンザの感染予防策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット（有症者自身がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと）、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要である。高齢者における感染への警戒の観点から、医療・福祉施設へのウイルスの持ち込みを防ぐために、関係者が個人で出来る予防策を徹底すると同時に、訪問者等については、インフルエンザの症状が認められる場合の訪問を自粛してもらう等の対策が重要である。なお、2018/19シーズンは、例年通りA型2亜型とB型2系統による4価のインフルエンザワクチンが製造されており、65歳以上の高齢者、又は60～64歳で心臓、腎臓若しくは呼吸器の機能に障害があり、身の回りの生活が極度に制限される方、あるいはヒト免疫不全ウイルスにより免疫機能に障害があり、日常生活がほとんど不可能な方は、予防接種法上の定期接種の対象となっている。

-----

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第47週 平成30年11月19日(月)～平成30年11月25日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第47週							計	前週	全国(46週)	高知県(47週末累計)		全国(46週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/11/25				H30/1/1～H30/11/18			
インフルエンザ	インフルエンザ								( )	2 ( 0.04)	1,885 ( 0.38)	20,897 ( 435.35)	1,771,437 ( 358.66)			
小児科	咽頭結核熱				4				4 ( 0.13)	8 ( 0.27)	1,644 ( 0.52)	485 ( 16.17)	61,836 ( 19.61)			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎				1		28		33 ( 1.10)	33 ( 1.10)	7,660 ( 2.43)	1,706 ( 56.87)	305,752 ( 96.97)			
	感染性胃腸炎		9	14	39	9	7	15	93 ( 3.10)	71 ( 2.37)	18,672 ( 5.91)	4,413 ( 147.10)	692,700 ( 219.70)			
	水痘			1	5				6 ( 0.20)	10 ( 0.33)	1,452 ( 0.46)	258 ( 8.60)	44,316 ( 14.06)			
	手足口病			8	11	3			22 ( 0.73)	15 ( 0.50)	2,494 ( 0.79)	1,120 ( 37.33)	112,220 ( 35.59)			
	伝染性紅斑			2	4			1	7 ( 0.23)	4 ( 0.13)	1,921 ( 0.61)	164 ( 5.47)	33,399 ( 10.59)			
	突発性発疹			2	4	1	1		8 ( 0.27)	17 ( 0.57)	1,418 ( 0.45)	497 ( 16.57)	63,799 ( 20.23)			
	ヘルパンギーナ				1				3	4 ( 0.13)	1 ( 0.03)	615 ( 0.19)	471 ( 15.70)	97,536 ( 30.93)		
	流行性耳下腺炎								( )	2 ( 0.07)	359 ( 0.11)	63 ( 2.10)	21,457 ( 6.81)			
	RSウイルス感染症		1	2	5			1	9 ( 0.30)	8 ( 0.27)	1,762 ( 0.56)	1,081 ( 36.03)	110,741 ( 35.12)			
眼科	急性出血性結膜炎								( )	( )	( )	( )	504 ( 0.72)			
	流行性角結膜炎				4				4 ( 1.33)	2 ( 0.67)	552 ( 0.79)	110 ( 36.67)	26,850 ( 38.58)			
基幹	細菌性髄膜炎								( )	( )	11 ( 0.02)	4 ( 0.50)	445 ( 0.93)			
	無菌性髄膜炎								( )	( )	18 ( 0.04)	1 ( 0.13)	732 ( 1.53)			
	マイコプラズマ肺炎				1				1 ( 0.13)	5 ( 0.63)	167 ( 0.35)	92 ( 11.50)	4,557 ( 9.49)			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				1				1 ( 0.13)	1 ( 0.13)	4 ( 0.01)	20 ( 2.50)	133 ( 0.28)			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)								( )	1 ( 0.13)	9 ( 0.02)	33 ( 4.13)	3,107 ( 6.47)			
計(小児科定点当たり人数)	10 ( 5.00)	30 ( 4.29)	107 ( 9.17)	13 ( 4.33)	13 ( 6.50)	19 ( 3.80)	192 ( 6.19)			40,643	31,415 ( 777.29)	3,351,521				
前週(小児科定点当たり人数)	8 ( 4.00)	39 ( 5.56)	102 ( 8.41)	9 ( 3.00)	12 ( 5.75)	10 ( 2.00)		180 ( 5.68)								

注 ( )は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関) 定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第47週							計	前週	全国(46週)	高知県(47週末累計)		全国(46週末累計)	
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多	H30/1/1～H30/11/25				H30/1/1～H30/11/18			
インフルエンザ	インフルエンザ									0.04	0.38	435.35	358.66			
小児科	咽頭結核熱				0.36				0.13	0.27	0.52	16.17	19.61			
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			0.14	2.55		1.50	0.20	1.10	1.10	2.43	56.87	96.97			
	感染性胃腸炎	4.50	2.00	3.55	3.00	3.50	3.00	3.10	3.10	2.37	5.91	147.10	219.70			
	水痘		0.14	0.45				0.20	0.20	0.33	0.46	8.60	14.06			
	手足口病		1.14	1.00	1.00				0.73	0.50	0.79	37.33	35.59			
	伝染性紅斑		0.29	0.36			0.50		0.23	0.13	0.61	5.47	10.59			
	突発性発疹		0.29	0.36	0.33	0.50		0.27	0.27	0.57	0.45	16.57	20.23			
	ヘルパンギーナ				0.09			0.60	0.13	0.03	0.19	15.70	30.93			
	流行性耳下腺炎									0.07	0.11	2.10	6.81			
	RSウイルス感染症	0.50	0.29	0.45		0.50		0.30	0.30	0.27	0.56	36.03	35.12			
眼科	急性出血性結膜炎												0.72			
	流行性角結膜炎				4.00				1.33	0.67	0.79	36.67	38.58			
基幹	細菌性髄膜炎										0.02	0.50	0.93			
	無菌性髄膜炎										0.04	0.13	1.53			
	マイコプラズマ肺炎				0.20				0.13	0.63	0.35	11.50	9.49			
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)				0.20				0.13	0.13	0.01	2.50	0.28			
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)									0.13	0.02	4.13	6.47			
計(小児科定点当たり人数)	5.00	4.29	9.17	4.33	6.50	3.80	6.19				777.29					
前週(小児科定点当たり人数)	4.00	5.56	8.41	3.00	5.75	2.00		5.68								

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）  
 〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）  
 TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869  
 この情報に記載のデータは2018年11月26日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。